

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873900476		
法人名	有限会社 久保田電気		
事業所名	グループホーム マロン館 1		
所在地	かすみがうら市宍倉6182-46		
自己評価作成日	平成 29年 4月 28日	評価結果市町村受理日	平成 29年 8月 4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0873900476-00&PrefCd=08&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成29年6月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さんと一緒に畑を作っている。
 日中、なるべくリビングで過ごして頂くようにゲームやカラオケをかけている。
 季節を感じられるよう、旬の野菜を取り入れた食事を提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は栗畑に囲まれた閑静な場所に立地し、利用者が穏やかに暮らせる環境の中、理念に組み込まれている「自由にゆったりとした時間を大切に…」を重視して、管理者や職員は日々利用者の希望を聴きながら行事や外出、外食などを支援している。利用者の病院への受診の付き添いは、医師に利用者の体調の変化や日常の様子がわかるように家族等ではなく職員を付き添いさせる方針をとっており、家族等からは、病院までの移動や車いすの移乗などで大変助かることと喜ばれている。利用者は職員と一緒に事業所周辺を散歩しながら地域住民と挨拶を交わしているほか、事業所の周りは農家が多いことから、季節に応じた野菜を多数の地域住民が持参してくれるなど、日常的に地域住民と交流し、地域の一員となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にそったサービスを心がけている。 事務所など目につく所に掲示している。	理念の文言に「自由にゆったりとした時間を大切に」とあることから、利用者の希望を聴きながら行事や外出、外食などを決めており、日々理念に沿った支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の奉仕作業、廃品回収に参加している。 近くのデイサービスと交流している。 散歩をしている方と話をしている。	地域の子供会が行っている廃品回収に協力しているほか、年1回事業所で開催するバーベキュー大会に地域住民を招待している。地域の中学校から体験学習の希望依頼がある時は受け入れ態勢がある。歌や踊り、カラオケ、尺八、リハビリ体操、腹話術のボランティアを受け入れている。地域の住民達が季節に合った手作り野菜をそれぞれ持参してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	バーベキューを行う際は、近所の方達に参加を呼び掛け理解して頂けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度行っている。 状況の報告や色々な情報を得ている。	委員から時期に合った花見や見学場所などの情報を得て、外出支援を導入している。市職員又は地域包括支援センター職員の毎回の参加が得られていない。	市職員又は地域包括支援センター職員の毎回の参加を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議に参加していただいたり、担当の方と連絡を取り意見やアドバイスをもらっている。	居室に空きがあるので、管理者は市担当者や地域包括支援センター職員を訪問し、事業所の内情を伝えながら相談し空きが埋まるようお願いしている。介護相談員を受け入れているほか、成年後見制度等についても相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない。 ポスターを掲示し、理解してもらっている。 やむおえない場合は、利用者さん、家族に理解してもらい同意を得る。	月1回開催するミーティング時に身体拘束の内容とその弊害などを再確認し、現在身体拘束の状態になっていないか話し合っている。管理者は外部研修に参加し、その内容を月1回のミーティング時に報告しながら研修として職員に指導している。現在身体拘束はしていないがやむを得ず行う場合に備えた経過観察記録や再検討記録等の書類を整備するまでには至っていない。	やむを得ず身体拘束の行為をしなくてはならない場合に備えて、同意書と経過観察記録、再検討記録の関連性がある書類一式の整備を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	あってはならない。 利用者さんに変化が無いのか、日頃から気をつけて観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したり、資料を誰でも見られるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんからは、日頃から意見、要望を聞きできる限り実施できるようにしている。家族が面会にみえた時、話をしている。	重要事項説明書に第三者機関の苦情相談受付窓口を明示している。家族等には年1回の家族会や毎月送付しているお便り、意見箱、面会時等に意見を聴くようにしているが、十分に聴き取れているとは言えない。	家族等から運営に反映する意見や要望など得られるためにも、無記名式アンケートの実施を期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングを行い意見を聞いている。ミーティングに限らず、普段から意見を言いやすいようにしている。	管理者と職員は日頃から意見を言い易い関係を築いており、職員から得た情報を直ちに運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得にむけて働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に合った研修を受けてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くのデイサービスやグループホームと交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	こちらからコミュニケーションをとるようにしている。 話しやすい雰囲気を作るよう努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から相談、要望があれば聞く機会を設けている。 面会の時話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の方に他のサービスも使える事を伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人、家族から今までの状況を聞き、利用者さんに合った対応ができるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話等で施設での様子を伝え、意見を聞きながら関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来ていただいたりしている。	利用者や家族等から話を聴いて馴染みの人や店などを把握している。自宅の草刈に家族等と一緒にいたり、職員が留守宅が心配な利用者と自宅を見に行くなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の関係を常に観察し、家具の配置を変えたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前、入居されていた方の家族がカレンダーを持ってきてくれます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話から本人の希望、意向を把握できるよう努めている。	入居時に利用者や家族等から生活歴を聴き取り記録に残しているほか、日々の関わりの中から思いや意向を把握している。思いを表出することが困難な利用者は表情や仕草から汲み取り、職員間で話し合い把握に努めている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者さん、家族から今までの生活歴等の情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	血圧、体温を測定したり、表情を観察しその日の状態を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者さん、家族、職員の意見、要望を聞き本人らしく暮らせるようプランを作成している。	利用者や家族等の意向をもとに、医療関係者の意見も反映して介護計画を作成している。2ヶ月ごとにモニタリングを行い、基本1年で見直しを行っている。利用者の状況に変化があった場合は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録をもとに、変化があった時は職員同士で話し合いができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんの状況に応じて、受診、買い物、ドライブ等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方に来ていただき、体操、踊り、カラオケを披露して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医へ受診している。家族も一緒に受診して下さる方もいます。	契約時に希望するかかりつけ医への受診が可能であることを説明しており、受診の付き添いは職員が行い、場合によっては家族が一緒のこともある。職員が同行することで医師と直接情報のやりとりができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度看護師が来館するので、気になる事があると相談している。急変時は電話で指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	できるだけ面会に行き、看護師に様子を聞いたり、家族と連絡を取ったりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の方と話し合い、方針を聞いている。	看取りに関する指針と同意書があり、契約時に説明をしているが、状況の変化に応じた話し合いと段階的な同意を行うまでには至っていない。	状況の変化に応じた話し合いと、段階的な同意を行うことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定した避難訓練を行っている。備蓄品のリストを作成し、目につくところに掲示している。	近隣住民の協力を得て避難訓練を行っている。消防署からの反省点として、指摘や指導の文言は記載されているが、管理者と職員で反省点や今後の課題を話し合い記録に残すまでには至っていない。	反省点について話し合い、今後の課題を記録に残すことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー開示についての同意書をもっている。 一人ひとりに合った対応を心がけている。	利用者に対する言葉遣いに気をつけるほか、トイレ誘導時には目立たず、さりげない声かけや対応を心がけている。個人情報に関する書類は事務所の鍵のかかるロッカーに保管し、情報漏洩に留意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中で思っている事を言えるよう心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のペースで過ごせるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度、美容室の方に来ていただいている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューはリクエストを聞いている。 野菜の皮むきなど手伝って頂いている。	利用者の好物や苦手な物を踏まえた献立の工夫をしている。食事形態はその人の状況に応じて変えている。事業所の庭に生えているヨモギを使用して草もちを作りみんなで楽しんだり、誕生会のケーキのデコレーションを自分たちで行うなど食事を楽しむことのできる支援をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や形態は一人ひとりに合わせている。 水分を採るよう声掛けしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けして、歯みがきをしていただいている。 義歯を預かり洗浄剤をしようしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間をみて、トイレへ誘導したり、声掛けをしている。	ほとんどの利用者が自分でトイレに行き排泄をしている。時間を見て声かけをする場合もある。自ら排泄チェック表をつける利用者があるなど排泄の自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多くとり入れた食事の提供。 ラジオ体操、散歩など体を動かすようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の気分、状況に合わせて支援している。	入浴は1日おきに午後からを基本として行っているが、利用者の意向に沿っていつでも入れるように支援している。同性介助にも対応している。脱衣所に椅子や扇風機を置き、快適な環境作りをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室、リビングでくつろいで過ごせるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の説明書をファイルに綴じ、いつでも見られるようにしている。 薬が変わった時は、口頭で伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑、掃除を手伝っていただいたり、野菜の皮むきなど手伝っていただいている。 ぬり絵、オセロ、パズル等誰でもできるようにしてある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は散歩に出掛けたり、近くの直売所まで行ったりしている。 3ヶ月に1度は車で出かけられるよう企画している。	利用者は職員と一緒に五感を刺激しながら体力維持と気分転換を兼ねて事業所周辺の散歩をしている。遠くまで行けない利用者は事業所の庭にある家庭菜園で野菜の成長を見たり、玄関前の椅子に座って日光浴をしている。2、3ヶ月に1度、車でドライブを兼ねた買い物や外食を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出した際は自分の財布から支払いしていただいている。 普段は金庫に預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話をかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに合わせた物を飾ったり、庭に咲いた花を飾ったりしている。	玄関内に椅子を置き、靴の脱着の際、利用者の転倒防止に配慮している。居間兼食堂にソファを設置し利用者が居室以外でも寛げる環境にしているほか、七夕には笹に願い事の短冊をつけて季節感を醸し出している。リビングからは畑の野菜の成長がすぐに見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを玄関やリビングに置き、誰でも座れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使いなれた物を持ってきていただいている。 畳かベットを選んでもらっている。	使い慣れたものを居室に持ち込み、居心地よく過ごせるよう支援している。利用者に合わせた椅子が事業所で用意されており、寛いだ時間を過ごすことができる。また、ベッドにサイドレールが必要な利用者に事業所が設置し安心して立ち上がれるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋、トイレ、風呂場がわかるように紙を貼っている。 利用者さんに合わせて手すりをつけている。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホームマロン館

作成日 平成 29年 8月 1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	状況の変化に応じた話し合いと段階的な同意を行うまでに至っていない。	変化に応じ、家族と話し合う。書類に残す。	主治医・家族と話し合いながら支援する。	1ヶ月
2	35	避難訓練後の報告書はあるが、反省・課題が記録として残せていない。	きちんと記録に残す。	避難訓練用の記録用紙の作成。	1ヶ月
3	10	家族等から意見・要望が十分に聴き取れていない。	家族等から意見・要望をだしてもらおう。	月1回のお知らせと一緒に要望書を送る。	1ヶ月
4	6	身体拘束についての同意書・記録が揃っていない。	同意書・経過観察記録・再検討記録の書類一式を揃える。	書類を揃える。	1ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。